

## 電波の枠を超えて

### Realizing the Future by Extension of the Radio Wave Domain

“アンテナから出ている目に見えないもの”。“電波”ということばに読者の皆さまが抱くイメージは、このように漠然としたものだと思います。携帯電話の爆発的な普及や様々なレーダの活用により、目に見えないそれが膨大な情報を運び、手の届かない物理現象を捕らえることは社会に広く認知され始めたと思いますが、わたくしたち“電波技術の応用分野”に携わる者は、このことばに無限の可能性を感じています。それは、わたくしたちが築き上げてきた、一昔前では想像もつかなかったような“夢の具現化”がそう感じさせるのだと思います。

はるか遠方の飛行機を人間の目に代わって捕らえ、雨や風というつかみどころのない気象を定量的に把握する。そんなことがあたりまえとなる時代を先人たちは想像していたでしょうか。わたくしたちはそれらを現実のものとしてきました。そこには、困難を克服するために磨いてきた技術と、ユーザーの皆さまと共に培ってきたノウハウがあります。そして、これらを基盤とした創意工夫が、更なる夢を実現させる礎になるものと確信しています。

未開の地である成層圏に夢をさせ、そこに無人飛行船を飛翔させて膨大な情報を収集・提供する。そのために無線通信や航空管制の技術と経験を応用し、気象の影響を最小限とするために気象防災の知識を活用する。ひいては、アンテナから出ている目に見えなかった電波を目に見えるようにし、上空からの遭難者の発見や電波秩序の維持に貢献する。このような夢を思い描いています。

東芝は電波技術の応用分野において、これまで、ユーザーにかかわる様々な運用の知識と学術的な研究を営々と積み重ねてきました。これからも、このポテンシャルを生かし、皆さまの社会生活を豊かで快適なものにする商品を提案し、実現していきます。この特集では、それらの一端を紹介します。電波という要素技術の活用と、それに基づく経験やノウハウにより創出された新たな商品、そして、それらが活躍する安全で快適な生活シーンを思い描いていただければ幸いです。



梅川 栄吉  
UMEKAWA Eikichi